



PBLとは？

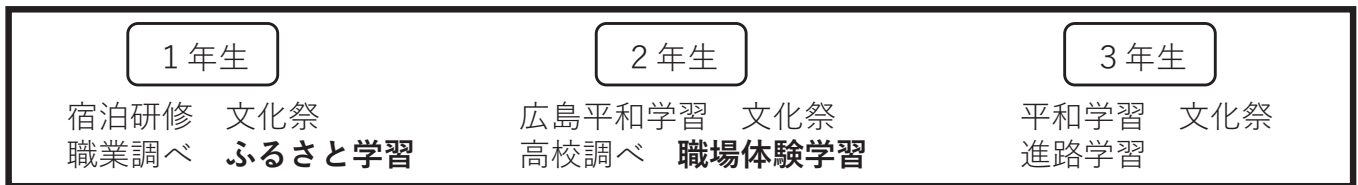
Project Based Learningの略で、子どもたちが、自ら課題を見つけ、その課題を自ら解決する過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を身に付ける学習方法のことであり、「課題解決型学習」ともいわれます。

【キーワード】

・単発から継続へ ・ビジョン（ゴールイメージ）の共有 ・校外へもアウトプット

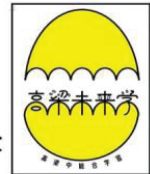
1 学校での位置付け

高梁中学校では、総合的な学習の時間の取組において地域と関連するものは、1年生でふるさと学習、2年生で職場体験学習があるものの、3年生では何もない状況でした。そこで、新学習指導要領の全面実施に向けた教育活動の見直しが進む中、互いに**単発的**に行われていた取組を3年生も含めて結び付け、**継続性**をもった取組へと発展させていきました。

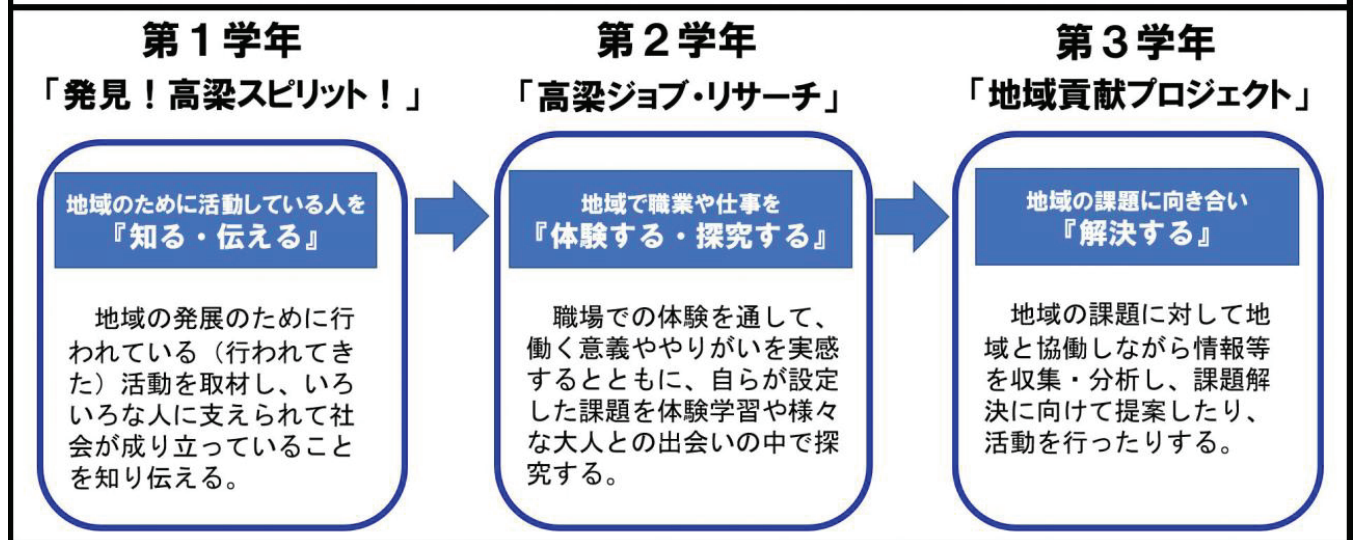


『高梁未来学』

～高梁市で学ぶ・自分の未来を考える～



教科等で学んだことや学校生活で身に付けた力を生かしながら、地域を学習のフィールドとし、地域と協働して地域の未来と自分の将来・生き方について考える。

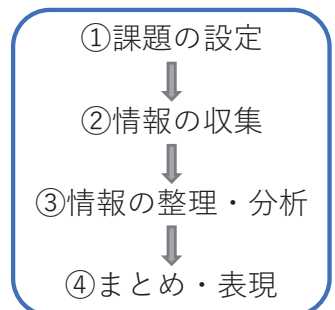


地域や社会との関わりを通して自分の生き方・働き方を考え、社会的自立に必要な力を育成するため、初年度（R2年度）は第3学年のみで「地域貢献プロジェクト」を立ち上げ、次年度（R3年度）には3年間を通した、「高梁未来学」を核にした計画的な課題解決型学習（PBL）を総合的な学習の時間の中に位置付けてスタートしました。

まず初めに、教職員間で「**ビジョン（ゴールイメージ）の共有**」を行いました。「なぜ、これを始めようと思ったのか」、「子どもたちにつけてもらいたい具体的な資質・能力は何なのか」をまとめ、全体計画を立てました。今年度も校内研修等を通じて教職員全体で共有しています。

次にプロジェクトチームや学年団を中心に、今までの取組の「視点を変えて」、プロジェクト（探究学習）の進め方における具体的な活動を決めていきました。特に、「④まとめ・表現」は校内だけでなく、**校外へもアウトプットする形**としました。

<探究学習の進め方>



2 具体的な活動

1年生では「人」にフォーカスし、「知る・伝える」といったアウトプットスキルの習得に力を入れています。高梁市発展のために活動してきた人たちの思いや、高梁市の現状を学び、市内の方々に紹介することに取り組みます。アウトプットスキルを高めるために、動画編集やプレゼンスキルなどのプロフェッショナルの講義を受け、対話を繰り返し、表現力・発信力に磨きをかけます。



Before

After

ふるさと学習

取材
↓班でまとめ
校内発表

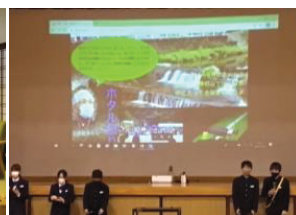
人
に
フォーカス

発見！高梁スピリット

タウンミーティング
↓動画・パンフレット講座
↓作品の構成
↓現地取材
↓動画・パンフレット製作
市内へ発信



高梁市に貢献してきた人
(エキスパートナー)への取材



パンフレット班とムービー
班に分かれて魅力を発信

2年生では「職」にフォーカスし、「体験・探究」します。外部講師からは「壁を乗り越える力」「働き方とお金」「Society5.0」など、様々な角度から「働く」の知識を得て、最終的に自分が設定した探究課題に対する弁論大会としてアウトプットし、その後冊子にして協力事業所に配付しました。調べ方のベースを設定すれば、授業の中で調査時間を設けなくても、家庭で端末を使って調査が可能で、学校では意見の発表やまとめに多くの時間を使うことができます。



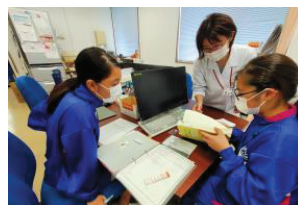
職場体験学習

取材
↓体験
↓感想の校内発表
企業へのお礼

職
に
フォーカス

高梁 JOB RESEARCH

「働く」をテーマにした
探究課題を設定
↓調査
↓様々な取組や
職業人との出会い
↓意見文校内発表会
発表会



職場体験を通じて、
「働く」ことを学ぶ



これからの「お金」と「働く」
について考える授業を実施

3年生では「地域貢献」にフォーカスし、「課題解決」の力を磨きます。事業所と連携し、調査をしながら、中学生ならではのアイデアを出し合い、効果的な方策を提案します。課題の設定時には、市内の団体・事業所等の課題や思いに対して、自分たちが挑戦してみたいと感じた課題を選び、複数のグループが重複した場合は、なぜそう感じたかをその場でプレゼンをするといった形で、取り組む課題を決めるなど、生徒に「自分ごと」としての意識をつける工夫をしています。また、発表会では、自己評価と他者（団体・事業所等）評価を通し、自己理解も深めています。



平和学習など

地域に関連するもの
や、1・2年生での
学習に関連する内容
に欠けていた。

地域
貢献
に
フォーカス

地域貢献プロジェクト

事務所とのミーティング
↓現地調査
↓課題解決プラン
↓活動
発表会



事業所の方々と
のミーティング
を通して課題を把握します



現地調査や課題解決に向けた実
践をまとめ、発表を行います

3 課題と今後に向けて

高梁未来学を核とした計画的な課題解決型学習（PBL）の実施には、**教員間だけでなく、教員と生徒間でもゴールイメージを共有し、学年ごとに途切れない指導が必要**となります。そのため、現在は**ルーブリック**を活用して育成する資質・能力をまとめ、学習の場面や段階に応じて、現在地や目標を把握できるように取り組んでいます。また、担当が変わっても継続できるよう、ルーブリックを基に話し合いを設け、**校内のプロジェクトチームやコミュニティスクールの方々とも連携・協働**を進めて、持続可能な取組となるよう意識しています。

取材を通じて、「視点を変える」「生徒のどんな姿をイメージするか」という“意識”が大切だと感じました。大枠だけは決めて、流れはシンプルに、教師も生徒も「わくわくをベースに」取り組まれていました。

